

令和 6 年度 総合教育会議 議事録

日時：令和 7 年 1 月 22 日（水） 15：00～16：15

場所：裾野市役所 401 会議室

出席者：市長 村田 悠

教育長 風間忠純 教育委員 眞田平芳 教育委員 桃井昭一

教育委員 庄司伸子 教育委員 神戸寿恵 教育委員 根上泰子

【市長戦略部】

市長戦略部長 鈴木 努

【教育委員会】

教育部長 勝又明彦 教育監兼教育総務課長 勝又和仁 教育部次長 鈴木則和

学校教育課長 佐野充洋 学校教育課長代理 川波正美 教育総務課 池ノ谷京子

傍聴人 2 名

教育部長

ただいまから裾野市総合教育会議を開会いたします。私が、本日の司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議では「裾野市教育振興基本計画の策定に向けて」及び「不登校児童生徒への対応について」の 2 つのテーマについて協議させていただきます。来年度の第 3 期教育振興基本計画の策定に必要なアンケート結果について、また教育界で直面している問題について、市長をはじめ市長部局の皆様と共有していきたいと思います。

それでは、本会議の主催者であります村田市長からご挨拶を申し上げます。

市 長

皆さんこんにちは。本日は、お忙しい中「裾野市総合教育会議」にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。この総合教育会議は、教育委員会と連携しながら、裾野市として講ずべき教育に関して協議させていただく重要な場でございます。

本日は先ほど教育部長からお話しがあったように「裾野市教育振興基本計画の策定に向けて」「不登校児童生徒への対応について」、この 2 点を協議させていただきます。来年度、教育委員会では、次期教育振興基本計画の策定作業が控えているものと伺っております。現行計画の理念を引き継ぎつつ、課題や社会の変化に対応していく為に計画策定をする必要があるかと思われます。また、増加傾向となっている不登校児童生徒への対応につ

いては「すそのCOCOLOプラン」を作成し実施しており、不登校を生まない環境づくり、児童生徒の学びを確保することなど、今後も不登校児童生徒への支援は重要な課題になります。未来の裾野市を担う子どもたちのために、引き続き皆様方のお力添えをお願いいたします。まして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

教育部長

それでは、これから議事に入りますが、議事進行につきましては、裾野市総合教育会議運営要綱第4条によりまして、市長が行うこととさせていただきます。

なお、議事録を作成するため、会議の状況を録音させていただきます。また、作成した議事録は、市のホームページに掲載し、市民の皆様へ、情報発信していく予定です。市長よろしくお願いいたします。

市 長

それでは、要綱の定めによりまして、座長を務めさせていただきます。早速、議事に入りたいと思います。「議事1 裾野市教育振興基本計画の策定に向けて」を議題といたします。はじめに、本年度実施された「教育に関するアンケートの結果」につきまして、その結果内容を教育委員の皆様と共有したいと思います。それでは、担当課より説明をお願いします。

教育部次長

「教育に関するアンケートの結果報告」について

教育委員に事前に配布したアンケート集計結果について、主な項目のみ報告。

市 長

只今の説明につきまして、何か不明な点や確認したい点等はございますか。アンケート結果は事前にも確認させていただきましたが、私としましては各学校環境が違う中で現場の先生は頑張ってください、安定した学校運営をしていただいている結果が児童生徒の学校の満足度につながっているのではないかと感じました。もし追加で感想レベルでも構いませんのでご意見などあれば、委員の方からお願いします。

委 員

アンケートで「学校が楽しいと思う」「ややそう思う」の合計が小学生89%、中学生85%ですが、このアンケートには不登校児童生徒は含まれているのでしょうか。

教育部次長

このアンケートは学校の先生を通じて、市内の小学校5年生、中学校2年生、すべてに配布をさせていただきました。WEBでの回答も可能なので、学校に来ていない児童生徒で

も回答が可能なかたちで対応させていただきました。

委 員

いじめも不登校の原因の1つだと考えられます。アンケートで「友達と仲良くできていると思う」「ややそう思う」の合計が小学生93%、中学生92%と割合は高いですが、いじめで不登校になる割合は全要因の何%ですか。

学校教育課長

令和6年度11月末時点で、不登校児童生徒は110名います。報告を学校からあげてもらうにあたって、その要因もあげてもらっていますが、その中では、いじめが主たる要因となっているものはありませんでした。ただ、友達と人間関係が上手くいかないという「他の児童生徒との関係」は5名いて、全体の4.5%となっています。

委 員

いじめはないということですが、人間関係が上手くいっていない児童生徒は、当事者同士で解決していると理解していいのでしょうか。

学校教育課長

文科省の規定で3カ月間は様子を見ることになっています。そのため、3カ月間は「解決」という判断はしません。毎月、報告の中で解決したかどうかというのをそれぞれ確認しますが、どうしても3カ月間は「未解決」になります。

市 長

この後の協議にもつながる部分ですが、不登校児童生徒への心のケアや学習のサポートが重要になってくると思います。委員は如何でしょうか。

委 員

「学校生活の満足状況」の部分で、不満・やや不満が多かった「トイレ等設備のきれいさ」についての部分が気になりました。私もPTAの掃除などで、何度か中を見たことがありますが、同じように少し感じました。感染症のこともありますし、衛生上も清潔であってほしい場所なので、自分達で満足して使用できる場所になるように、清掃用具や清掃方法、きれいに使用する大切さなどを見直し考える機会等によって、意識が変わり改善されたいと思います。

市 長

毎日必ず使う場所で、道徳的に考えても誰もが使う場所は美しくなければいけないし、自分が汚したらきれいにしていくというモラルを子ども達に持っていたいただかなければなら

ないと思っています。ハードの面では洋式化を進めて、そういうところは変えられてきています。あとは物を大事にしたり、共有部分をどうしたらみんなで気持ちよく使って生活できるかを子ども達にも改善していってほしいので、そういった意識が変わっていくことを期待すると同時に、どういう指導をしていったらいいかということも教育部局で考えたいと思います。他にはございますか。

委 員

児童生徒の「学校や先生に望むこと」では、興味のあることをたくさん勉強したい割合が多く、保護者の「教育について気になること」では学習状況の割合が多くなっています。それから地域の方が「学校に対して協力してみたいこと」では、10～30代で学習支援の割合が多かったので、勉強したい意欲のある子ども達と学習支援の協力をしたい方々が上手く結びついたら良いかなと思いました。高校生や大学生であれば、支援できる時間帯、その時期などを次回のアンケートなどで調査していただけたらと思いました。

教育部次長

確かに興味のあることを学びたい子ども達と若い世代の教えたいたい方が結びついたら、良い効果が期待できそうです。まずはアンケートの機会があるときに調査することを前向きに検討していきたいと考えます。

市 長

新しい試みになるかもしれません。アンケートがあるときには是非調査をお願いしたいと思います。委員は如何ですか。

委 員

アンケートの結果報告を一通り読ませていただいて、学校教育への子どもの満足度、保護者や地域の認識はおおむね良いと思います。様々な教育施策、教職員一人一人の努力に感謝します。あと、割合は低くても不満や批評を見逃さない姿勢が、不登校児童生徒の対策につながると同時に、すべての子どもにとってより良い学校につながっていくと思います。気になったことは「読書不足」「スマホ・インターネットの使い方」「地域の教育力」の3点です。特に、スマホ等の使い方については、家庭教育の問題ではあるんですけども、ぜひ学校でももっと指導を充実させていただけたらと強く感じました。

市 長

自分の思ったことを伝えるのが不得意な子ども達もいるはずなので、こういったアンケートで記入のあった少数の意見、コメントも考慮していくことが、不登校児童生徒の対策につながっていきそうです。スマホの使い方については、リテラシー教育とか、学校ではどういった指導をしているのでしょうか。

学校教育課長

学校では必要に応じて携帯電話会社などに依頼をして、スマホの使い方教室等を実施しています。ただ、学校から上がってくる問題行動において、SNS関係が増加しているのも事実です。先ほど家庭の教育という話もありましたが、家庭とも連携しながら学校でも対策を考えていく必要があると認識しています。

市 長

委員は、学校以外の部分で、気になったところがありますか。

委 員

市民のアンケートで生涯学習センター・文化センターなど施設の充実が1位になっていますが、多くの市民が文化センター大ホールの早期再開を待ち望んでいるのではないのでしょうか。

教育部次長

今回のアンケートでこういった結果が出たことを担当課と共有して話し合っていきたいと思っています。

市 長

文化センターの大ホールの改修につきましては、令和7年度予算に計上させていただきました。令和8年度中には使えるようになる予定です。今は裾野の大ホールが使えず、御殿場の大ホールを使うことになった団体も出ています。総合芸術等の発表の場であるけれども、お年寄りが生涯教育で習ってきた発表の場であるとか、子ども達の生活発表であるとか、いろいろな使い方がある中、それが今使えないということは市民にとって不利益なことなので、工期内に改修が終わるように尽力したいと思います。

アンケートの結果は、膨大なデータではありますが、来年度次期教育振興基本計画の策定の際の重要な資料となるかと思いますので、是非、有効に活用いただきたいと思います。続きまして、「議事2 不登校児童生徒への対応について」を議題といたします。学校に通いにくくなった児童生徒の現状、課題、支援等について、協議をさせていただきたいと思います。まず、担当課から説明を求めます。

学校教育課長

「2 不登校児童生徒への対応について」

静岡県市町教育長研修会 裾野市発表資料で説明

市 長

只今、学校教育課より「不登校児童生徒への対応について」の説明がございました。
ここで、私の考えをお伝えしたいと思います。

市長戦略重点施策として「学校教育環境への投資」に取り組んでまいりました。その中のひとつに教室以外の居場所として、スペシャルサポートルームの設置がありました。登校に不安を抱える児童生徒が全国的にも増加している中、裾野市では児童生徒、個人に合わせた支援として、一次予防「不登校にならないための環境づくり」、二次予防「不登校の早期発見・早期対応」、三次予防「不登校の個別的対応」まで、具体的な支援を実施しております。今後も継続して、不登校児童が減少する取り組みや、支援体制の強化を図っていただきたいと思います。不登校児童生徒が減って、自分に希望を持って、生き生きと生活できる子がいて、将来社会に出たときに働ける子を育てるというのが義務教育の責任を負った自治体の仕事だと首長と教育長はいつも思っています。

ではここで、教育委員の皆様、不登校児童生徒への対応について、心配される課題等がありましたら、ご意見をいただきたいと思います。委員はいかがでしょう。

委 員

不登校児童生徒が令和5年度に小中学校合わせて146人と過去最多となっています。不登校の原因として、人間関係、学業不振、発表が苦手などいくつかの理由があると思いますが、このような児童生徒に、時間の拘束なく、自由に学べる環境づくりをしてあげることが重要ではないでしょうか。

市 長

眞田委員から時間の拘束なく、自由に学べる環境づくりについてご質問がありました。このことについて担当課ではどのように考えていますか。

学校教育課長

裾野市では、不登校児童生徒に対して、本人が希望する場合は、昼間はオンラインで授業を視聴することができるようになっています。端末の中にはドリル的なものもありますので、授業のやっていない時間帯はそういうもので勉強することもできます。また、ふれあい教室で学習している子どももいます。そして、学校には登校できるけれど、教室に入ることが難しい子どもは、別室のスペシャルサポートルームで対応している学校もあります。

市 長

委員はいかがですか。

委 員

支援員の仕事の内容と、小・中学校での人数配分はどのようになっていますか。

学校教育課長

仕事の内容は、児童の学習支援・生活支援に関すること、学級事務支援に関すること、児童の校外引率に関することなど、多岐に渡っています。小学校では低学年に支援員を配置するケースが多く、中学校には支援員の配置はしていませんが、東中、西中、富岡中に1人ずつスペシャルサポートルームの専属支援員を配置しています。

委 員

不登校児童生徒が令和6年度12月末は116名ということで、現在の支援員の人数では対応が難しいと思いますが、増員の計画や予定はあるのでしょうか。

学校教育課長

現在、中学校3校のみ配置しているスペシャルサポートルーム支援については増員したいと考えています。そうすることで、通常学級に関わる先生たちが今度はそちらに力をかけられて、不登校予備軍的な子どもへの手厚い支援が実現するのかなと思います。

市 長

そうですね、将来働く子ども達を担う為にも、今後、スペシャルサポートルームの支援員は2名は増員していく方向で考えていきたいと思っています。委員はいかがでしょうか？

委 員

スペシャルサポートルームの設置について説明がありましたが、いつも同じ場所で、同じ先生が迎えてくれるのは大事なことだと思います。子どもも拠り所を感じて寄り添っていけるといって、とても安心できる場所だと思うので増員は嬉しいです。できれば1校に1名いたらよいと思うのですが、実際にスペシャルサポートルームの支援員は登校して来た生徒とどのように接しているのでしょうか。

あと、子どもがクラスの一員であるというのを実感することも大事だと思うので、子どもと担任教師とは話す時間があるのか、支援員と情報共有や連携を行っているのか伺いたいと思います。

市 長

そうですね、そのあたりはどのような配慮がされているのでしょうか。

学校教育課長

暖かい雰囲気、いつも同じ人がいるということが大事だと思います。スペシャルサポートルームに常駐して、いつでも気軽に生徒が相談できたり、心のエネルギーが下がったときに過ごすことができるようにしています。教室になかなか入れない生徒の居場所としてのスペシャルサポートルームなので、温かな雰囲気になるように環境整備、掲示物等にも力を入れています。担任との交流、情報共有については、担任と直接話をする時間がある場合は話をし、その時間を確保できないときは、記録を取るようにしています。支援員まかせにならないような仕組みとなっています。

市 長

担当課でそういった流れを作り上げているのは心強いですね。応援していきたいと思っています。保護者として気になる場所など何かありましたらお願いします。委員はいかがですか。

委 員

COCOLOプランに“不登校の保護者も支援”とあります。不登校の状況・内容にもよりますが、そのことにより、仕事を休むだけでは対応しきれず、不登校児童生徒の保護者離職率も上がっていることが世の中では問題となっていますが、市内の保護者の状況はどうでしょうか。

学校教育課長

不登校児童生徒の保護者離職率については調査をしていないので、市教委としては把握していませんが、情報があがってくる中で、保護者が子どもの不登校に対応するために仕事を辞めたという話は聞いていません。支援ということでは、ふれあい教室では「生活習慣の改善」という業務もあって、朝、起きられない、学校に行けない子どもに対して「10時にはふれあい教室に行こう」とか小さな目標を設定して、生活改善を図るということもやっているのです。そういう部分では保護者への支援にも繋がっているのかなと感じます。

委 員

基本的な生活の支援とか、不登校になってしまった子どもに対しての支援だと思うんですけれども、家で過ごすことが多い子どもと一緒にいる家族が気付いたり、不登校を予防する為に、進級の際などに市内の状況も含めて、保護者への話があったらまた少し意識が変わるのではないかと思います。そういう機会はありますか。

学校教育課長

裾野市では小学校より、中一ギャップで中学校の方が不登校が多くなる傾向なので、中学校の入学説明会で、保護者向けにスクールカウンセラーや裾野警察署のスクールサポーターを招いて、講演を行う場合があります。思春期である子どもにどのように接したらよいか等をテーマにすることが多いです。

市 長

新入学説明会等での講演は、保護者の不安を取り除けているのではないのでしょうか。委員はいかがですか。

委 員

不登校の数が全国的に見ると増加の一途をたどっている中で、裾野市では今年度、微減とはいえマイナスの数字が並んでいるというのは本当に素晴らしいことだと思います。先ほどの説明の中にあったように、様々な角度から対策を講じて、きめ細かく支援体制を構築していることが、増加に歯止めをかけることにつながっていると思いますが、スペシャルサポートルームが場所の確保だけではなく、そこに専属のサポーターがいることが素晴らしいと思います。あとは、学校の担当者の研修の充実だけではなく、「学びの森」での教職員の研修、市講師・支援員の研修があることは大きいと思います。

要望をあげるなら、不登校児童生徒の保護者に対するサポートが不足しているのではないかと思います。不登校児童生徒の親たちと話をしたことがあります、相当地に悩み傷つき苦しんでいます。家庭でかかわっている親が前向きになることが、子どもにも良い影響を与えたいと思います。「ほっとカフェ」の取り組みは評価できますが、保護者がもっと気軽に立ち寄れて、同じ悩みを抱える親や乗り越えてきた親と話をすることで、ヒントや元気をもらえる。そんな場所があったらいいと思います。

学校教育課長

保護者が悩みを吐露できる場所として「ほっとカフェ」を実施しているのですが、今年度はまだ14名しか参加していないので、まだまだ保護者へ周知していく必要性を感じます。今後は広報に力を入れていきたいと思います。

教育長

どうもありがとうございました。不登校対策について説明をさせていただきました。新しい試みもありますが、不登校というのは問題行動ではないということをまず認識しています。どこでも誰にでも起こりうる可能性のあるものだとして理解しております。そうであるならば、その子ども達、ひとりひとりに合った学習の場所、居場所というものを用意したいと思いますので、他の機関との連絡であるとか、話しにも出ましたが保護者との連絡であるとか、そういう部分も含めて、踏み込んだ政策を展開していきたいと考えていま

す。今後ともよろしく願いいたします。

市 長

それでは、そろそろ予定していたお時間となりました。お忙しい中お集まりいただき、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。本日、協議をさせていただいた視点も踏まえ、今後、教育大綱・教育振興基本計画の策定の際には、留意していきたいと思います。また「不登校児童生徒への対応について」は、継続的な協議が必要かと思われます。今後の方向性など、また決まり次第、教育委員のみなさまに報告させていただきます。教育委員のみなさまには、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。他に何か、ご意見等はございませんか。よろしいでしょうか。無いないようでしたら、議事についてはこれで終了といたします。進行を教育部長にお返しします。

教育部長

ありがとうございました。皆様方から、何かございますか。それでは本当に貴重なご意見、皆様ありがとうございました。以上をもちまして、総合教育会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。ありがとうございました。

16 時 15 分 会議終了